

## 第3面 古代(奈良時代)の流路を発見

第3面では、流路・土坑などの遺構を確認しました。

注目されるのは、調査区の西側で見つかった流路で、奈良時代を中心とした遺物が多数みつっています。

流路からは、土器の底部を意図的に打ち欠いたものや、上下逆さまにして安置したような状態の土器などがみつかり、儀礼行為が行われていた可能性が考えられます。



▲ 底部を打ち欠いた土器



▲ 古代(奈良時代)の流路(北から)



▲ 須恵器・甕(口縁～肩部)。上下逆さまの状態出土。



▲ 土師器・長胴甕。上下逆さまの状態出土。

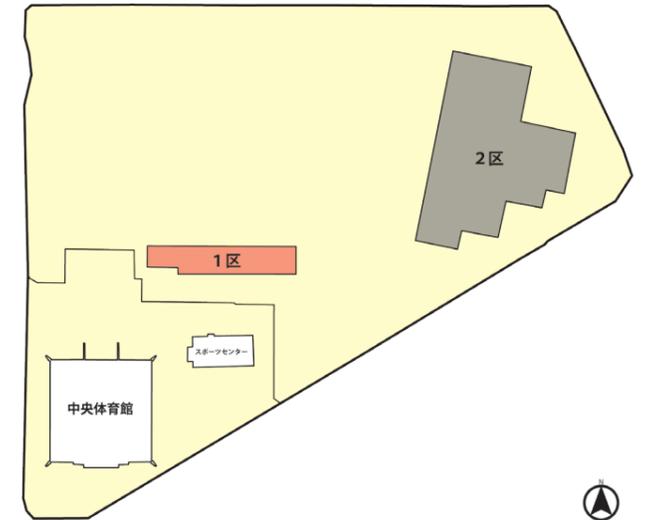
令和8(2026)年2月21日(土)

# 広田遺跡 No. 3 地点 第2次調査 現地説明会資料

### はじめに

西宮市では、西宮市中央運動公園再整備事業に伴い、令和7(2025)年9月から令和9年6月末(予定)の期間で、<sup>ひろた</sup>広田遺跡 No.3 地点の発掘調査を行っています。

発掘調査は、陸上競技場建設予定地を1区、体育館建設予定地を2区とした2つの調査区に分けて行っており、今回は、中世(鎌倉時代～室町時代)を中心とした多数の遺構や古代(奈良時代)の流路が見つかった1区の調査成果について公開します。1区ではこれまでに、3つの調査面(第1～3面)の調査を行っています。



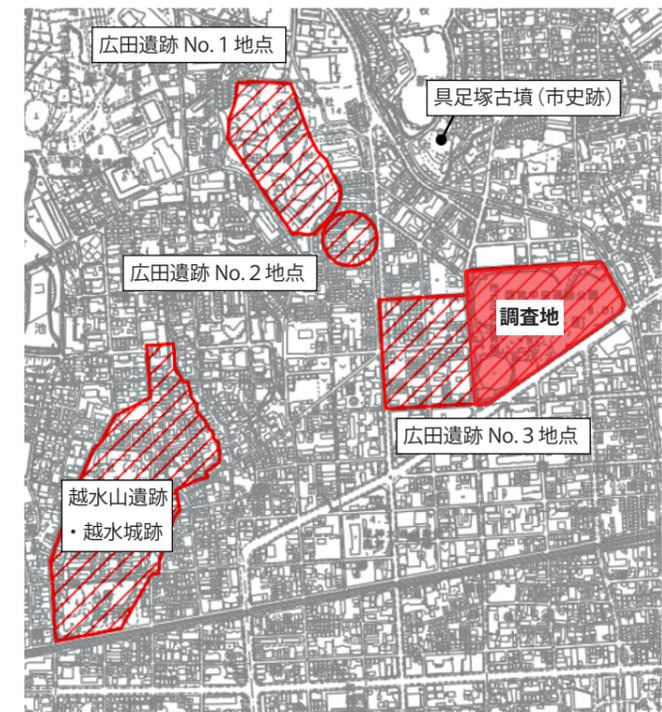
▲ 調査区模式図

### 広田遺跡 No.3 地点と周辺の遺跡

広田遺跡 No.3 地点は、<sup>ひろた</sup>廣田神社から国道171号の範囲にかけて広がる広田遺跡の一部です。広田遺跡は、北から南に向かい No.1 から No.3 の地点に分けられ、本遺跡は最も南に位置する地点になります。

広田遺跡は、上ヶ原台地の南方に広がる沖積平野に位置しており、本遺跡の北側に位置する上ヶ原台地の先端部には、6世紀後半に築造された地域首長墓と考えられる具足塚古墳(市史跡)があります。また、本遺跡の西側に位置する台地上には、<sup>くそくづか</sup>弥生～古墳時代の集落遺跡である越水山遺跡があります。さらに、この台地上には中世城館である<sup>こしみずじょう</sup>越水城があったと推定されています。

本遺跡の南を走る国道171号は、古代山陽道(西国街道)との関係が指摘されており、広田遺跡周辺は交通の要衝であったと考えられています。



▲ 広田遺跡 No.3 地点と周辺の遺跡

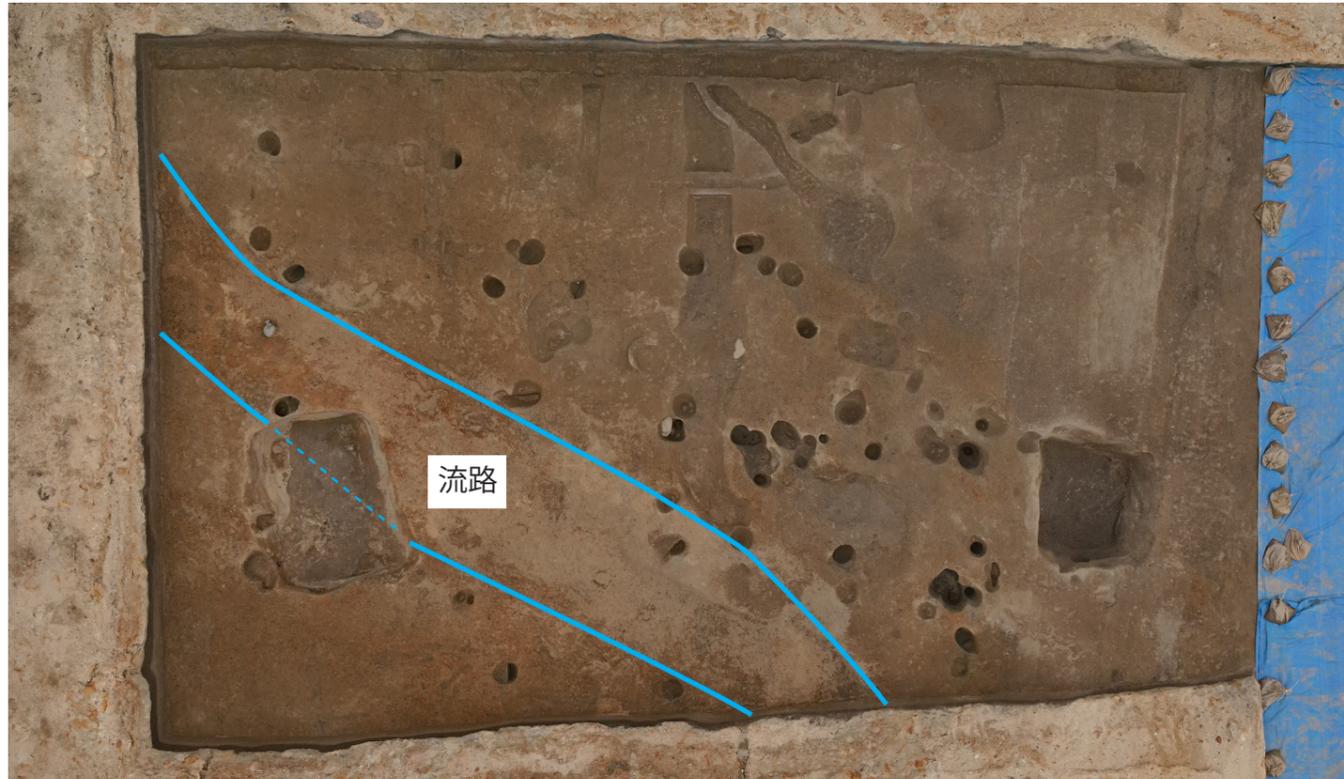
## 第1面 中世(鎌倉～室町時代)の遺構を発見

第1面は、調査区の西側に全体の約1/3の範囲で見つかりました。残りの東側約2/3の範囲については、現代に至るまでの土地利用の過程で削られてしまい、失われていました。

第1面では、土坑(人が掘った穴)、柱穴、溝、流路などの遺構を約110基確認しました。遺物には土師質土器や瓦器があります。これらの成果から、第1面は、中世以前の流路が埋まったあとに、中世(鎌倉時代～室町時代)の人びとが活動していた場所であることがわかりました。



▲ 流路から出土した古墳時代の土器(須恵器・提瓶)



▲ 第1面調査完了時のようす(真上から。写真上が北、下が南)



▲ 土器の出土状況



▲ 土器の出土状況

## 第2面 中世(鎌倉時代)の建物跡や井戸を発見

第2面は、調査区の全面で見つかりました。土坑、柱穴(掘立柱建物跡)、溝、井戸などの遺構を約370基確認し、土師皿や瓦器、土製羽釜などの鎌倉時代を中心とした遺物が出土しています。

掘立柱建物跡や井戸の存在から、鎌倉時代において、この場所が人びとの生活の場であったことが明らかになりました。



▲ 溝から瓦器3点が並んで出土



▲ 第2面調査完了時のようす(真上から。写真上が北、下が南)



▲ 井戸1は曲物の桶を積み上げて井戸枠にしていました。井戸2のような石敷きはありませんでした。



▲ 井戸2は上面に石を敷いていました。井戸枠は井戸1と同様に曲物の桶を積み上げていました。